

宮司以下祭員拝礼 (10月15日・例祭)

社報
あそみや

平成11年11月1日
第25号
発行所
阿蘇神社社務所
多良見町化屋名862
TEL 0957-43-5235

喜々津くんち

阿蘇神社

宮司 大島 大明

去る十月十五日に平成十一年度の阿蘇神社例祭が斎行されました。神社で行われる祭典はその内容により大祭・中祭・小祭に分けられます。例祭は大祭であり、例大祭とも云われます。宮司は衣冠をつけて祭典に奉仕をします。長崎県ではこの例祭日をくんち(宮日)と云います。

阿蘇神社の例祭も所謂「喜々津くんち」であり、かつては出店ができるなど大いに賑わったと云われ

ます。「くんち」には御輿みこしがある神社では御神体を御輿に移して氏子内を練り歩き、山車や踊りなどが奉納されます。

阿蘇神社には御輿もなく、現在は神社で祭典が行われるだけです。が、いつの日か氏子を挙げてお祝いできる本来の「喜々津くんち」の日になるよう努めたいと思っております。氏子各位の更なるご支援とご協力をお願いいたします。

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培い、太平を開く基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて、向かふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、
明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、
神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、
国の隆昌と世界の共存共栄とをいのること

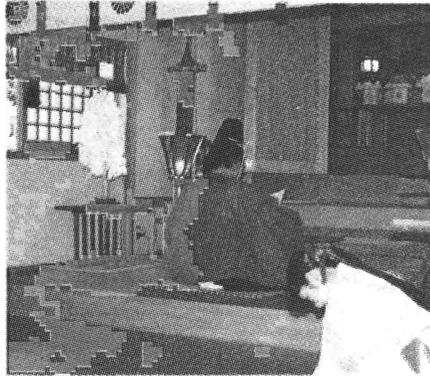
平成十一年
阿蘇神社
例大祭終了!!

十月十五日に平成十一年の阿蘇神社例大祭が斎行されました。

午前十一時、宮司以下祭員が参進、本殿御扉を開き、神前には各種神饌とともに神社本庁及び長崎県神社庁よりの幣帛料が供えられました。また今般化屋名の北島守幸氏より朱塗りの雪洞一对が寄進され、神前に据えられました。

祭典は先ず御神徳を讃えるところにも氏子崇敬者の繁栄を祈念する祝詞が奏上れ、引き続き巫女による神楽舞が奉納されました。最後に宮司以下参列者の代表が順次玉串を奉奠して拝礼、平成十一年度の例大祭を恙なく終了しました。

祭典終了後、朱塗りの雪洞一对を奉納された北島守幸氏に宮司より感謝状が贈呈されました。



引き続き社務所に移動し、本嶋総代会長の挨拶、高内収入役の祝辞の後松本淳氏の発声で乾杯を行い祝宴を開催しました。

◎例祭に際し以下の通り御奉納を賜りました。御厚志に感謝し御礼申し上げます。《敬称略・順不同》

◇幣帛料
神社本庁・長崎県神社庁

◇朱塗り雪洞一对
化屋名・北島守幸

◇献酒
諫早信用金庫多良見支店・支店長 木村洋一、十八銀行多良見町支店・支店長 松本由昭

◇初穂料

森正雄、慈恵病院・松本淳、阿蘇神社奉納相撲実行委員会・会長 松尾義光、かこい組(株)・池田忠憲、たらみ印刷・猿渡祐作、白石勇、JAことこのうみ喜々津支所長・草野栄、多良見町長、前山弘、原口史郎、山田豊明、石丸隆男、藤瀬宏平、菅崎清司、溝上盛夫、前田明道、富永喜志雄、吉井顕正、吉澤稔
以上



北島氏へ感謝状を贈呈

◇お知らせ◇

近年、喜々津地区の一部に「出雲大社」から来たと云って正月用の御神札を戸別に売り回っている者がいます。

神社界では、相互の神社と氏子区域を尊重して「氏子区域外へ直接御神札を頒布するため出向いてはいけない」と神社本庁の規則で定められています。一昨年出雲大社へ文書で問い合わせましたところ、大社側よりの回答によると「出雲大社とは一切関係ない」としたうえで「出雲大社の名前が使われたうえ、年末になると各地から苦情が相次ぎ苦慮している」とのことです。出雲大社を崇拝している方もいらつしやることでしようが、売り廻ってきた御神札を受けることは、崇敬する出雲大社に間接的に迷惑を掛けていることとなります。時期を見て旅行がてら出雲大社に直接参拝され、本当の御神札を受けられますようお願いいたします。

年末になるとこうした詐欺師が横行するようです。ご近所で声を掛け合い、騙されることのないようご注意ください。

恒例 阿蘇神社奉納 相撲大会 終了!

阿蘇神社恒例奉納相撲大会が去る九月十五日神社相撲場で開催されました。阿蘇神社の相撲大会は県内でも伝統ある宮相撲といわれており、以前は青年団が主催して開催していましたが、近年では町内の各種団体と有志が集まり阿蘇神社奉納相撲実行委員会(松尾義光会長)を組織し、実行委員会が主催して行われています。

今年の相撲大会は町内の子供会の地区対抗戦(十チーム)、学年ごとの個人戦、町選抜チームと町外より参加チームによる町対抗戦



(十四チーム)が行われました。

今年には長崎水産高校が参加できず、諫早農高相撲部だけの参加となりました。県を代表する諫農相撲部の取り組みには相撲の醍醐味を堪能することが出来ました。

それぞれの個人戦後には協賛商社よりの賞品がかかった三人抜き、五人抜きの技相撲が行われ、大いに賑わいました。

今年恒例になく雨の日が多く、また前日の十四日には、熱帯低気圧が台風十六号になるなど、不安定な気象状況で開催を心配する声が多く寄せられました。しかし阿蘇神社の宮相撲には雨は降らないとの伝えの通り、相撲大会当日は暑いくらいの好天候に恵まれました。

午前十一時より開会式に引き続き、炎天下のもと阿蘇神社の土俵で豆力士の力強い相撲が行われました。

当日の成績は以下の通りです。

◎町内地区対抗戦

優勝 中里

二位 大島

三位 木床C

四位 木床D

◎個人戦(六年生)

優勝 沼瀬直哉(大島)

二位 中島啓太(木床)

三位 金水大地(木床)

三位 小嶋祐輔(木床)

◎個人戦(五年生)

優勝 中村佳太郎(中里)

二位 本多 龍(西川内)

三位 村田大志(大島)

三位 金水郁弥(木床)

◎個人戦(四年生)

優勝 山下 翼(中里)

二位 松尾優志(西川内)

三位 石倉雅也(木床)

◎個人戦(一・三年生)

優勝 森 健剛(中里)

二位 吉岡 樹(中里)

三位 早田 航(木床)

三位 島崎 敦(船津)

◎町対抗戦

優勝 有 喜A

二位 時 津

三位 多良見A

三位 大村B

宮 相 撲

『日本書紀』によると、垂仁天皇七年に野見宿禰(のみのすくね)と当麻蹶速(たいまのけはや)の力くらべをしたのが相撲の起源とされています。

相撲と神社の縁は深く、全国多くの神社に土俵が設けられ、秋祭りには収穫を感謝しての宮相撲が行われています。寺社を建立するための資金集めに力士を呼んで行う勧請相撲とは異なり、宮相撲は氏子たちが神前に相撲を奉納するもので、神と人がともに楽しむものです。阿蘇神社での相撲の歴史は、記録が現存しないため詳細は不明ですが、江戸期には既に行わ

れていたものと思われま。船津のペーロンと同様、宮相撲も当時の村人が一堂に会しての神とともに過ごす楽しい一時であると思います。

土俵の四隅に柱を立て、土俵の中央と四本柱に神を祀ります。四本柱に紫の幕を張り房を垂らしますが、この房の色は神社の殿内に飾る五色の旗と同色となっています。また東西南北の四方にはその四方を司る神を配しています。東は青龍で青房(緑色)、南は朱雀で赤房、西は白虎で白房、北は玄武(亀)に蛇が巻き付いた様(紫)になります。残りの一色は黄色で土俵中央の色となります。

七五三詣では阿蘇神社へ！

男女三歳を「髪置」、五歳男児を「着袴」、七歳女児を「帯解
または紐解」といい、いずれも子供の無事成長を感謝し、今後
の幸せを祈るお祭りです。ご家族お揃いでぜひ御参拝下さい。



平成十二年の七五三祝、数年

- 七歳 平成五年生の女児
- 五歳 平成七年生の男児
- 三歳 平成九年生の男女とも

◎神社では十一月の十三日(土曜)
十四日(日曜)十五日(月曜)の三日
間は終日七五三の祈願受付をいた

します。その他の日は地鎮祭など
で留守することがございますの
で事前に社務所まで連絡願います。
◎十一月十四日(日曜)は記念写
真の受付もいたしております。

◎七五三詣でに自動車でお越しの
方は、神社裏のイーグルパチン
コ店の駐車場を借用いたしてお
ますのでご利用下さい。(境内に

も駐車でき
ますが台数
に限りがあ
ります)

◎総代会評議員会の報告

去る五月二十七日に平成十一年
度の阿蘇神社評議員会が開催され、
十年度の決算及び十一年度の予算
他が審議・承認されました。
①社務所の白蟻予防消毒、境内の
枯損木の除去及び樹木の剪定。
②神社維持費を時期を早めて納入
する(可能な地区のみ)

SあとがきS

社報「あそみや」二十五号をお
届けします▼夏には長雨、秋には
台風が上陸し米・ミカンなどへの
影響を案じています▼去る十月十
一日、伊切木・熊野神社の吉田実
宮司が逝去されました。数えの九
十歳という高齢でしたが、最後ま
で現役の神主として奉仕されまし
た。昭和四十九年から五十七年ま
で当阿蘇神社の宮司も兼任されて
いました▼朝夕の冷え込みも急に
厳しくなってきました。ご自愛専
一にお過ごし下さい。

◎大駐車場完備(阿蘇神社裏)
イーグルパチンコ
神社参拝の駐車場としても
ご利用下さい